



菊陽町DX人材育成プログラム

令和7年6月

菊陽町 総務部 総務課 行革・デジタル推進室

1 プログラムの概要

本プログラムは、菊陽町DX人材育成方針に定めたDX人材の職員像を実現するために必要なスキルを定めるものです。DXは、単にICTに詳しいだけでなく、業務を分析する力や変革を行うための創造力なども必要になってきます。

全ての職員が自治体DXを進める主体であることを認識し、本プログラムに定めるデジタル活用人材としてのスキルを身に付けてください。また、多くの職員がより高度なスキルを身に付け、DX推進リーダー及びDXアドバイザーとなり、自治体DXを加速度的に進めていくことを期待します。

2 プログラムの種類

本プログラムでは、全ての職員に必要なスキルと、DX推進リーダー及びDXアドバイザーに必要なスキルを同時に定めることとします。なお、高度専門人材については、DX推進リーダー及びDXアドバイザーの育成を進めたのち、改めて定めることとします。

DX推進リーダーに必要なスキルアッププログラム

デジタル活用人材に必要なDXリテラシーのプログラム
(全ての職員)

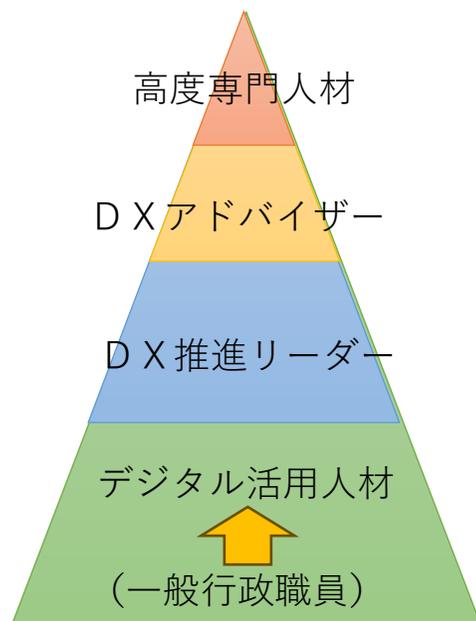
DXアドバイザーに必要な
スキルアッププログラム

図：スキルの範囲のイメージ

3-1 DX人材とは

本プログラムにおいては、菊陽町デジタルファースト推進計画を着実に推進していけるよう、デジタル技術を使った行政サービスの再構築や組織文化の刷新など大胆な改革を行い、それを住民の生活の質（Quality of Life）の向上につなげられる人材をDX人材と定義します。

3-2 本町が目指すDX人材の姿



図：DX人材の区分と役割

DX人材	主な役割
高度専門人材	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ICTやデータ利活用に関する高度な知識を持ち、プロジェクトマネジメントを行う。 ▶ 外部人材を活用する。
DXアドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 所属課を超えてリーダーシップを発揮し、全庁のDXを内部・外部の人材・組織と連携して進める。
DX推進リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 所属課のDX推進の中心的役割を担い、業務改革やプロジェクトに貢献する。
デジタル活用人材 (一般行政職員)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ DXの基本を理解し、デジタルの基本的知識・スキルを習得して自らの業務に生かし、住民サービスの向上及び事務の効率化を行う。 ▶ 全ての職員にとって必要な資質。

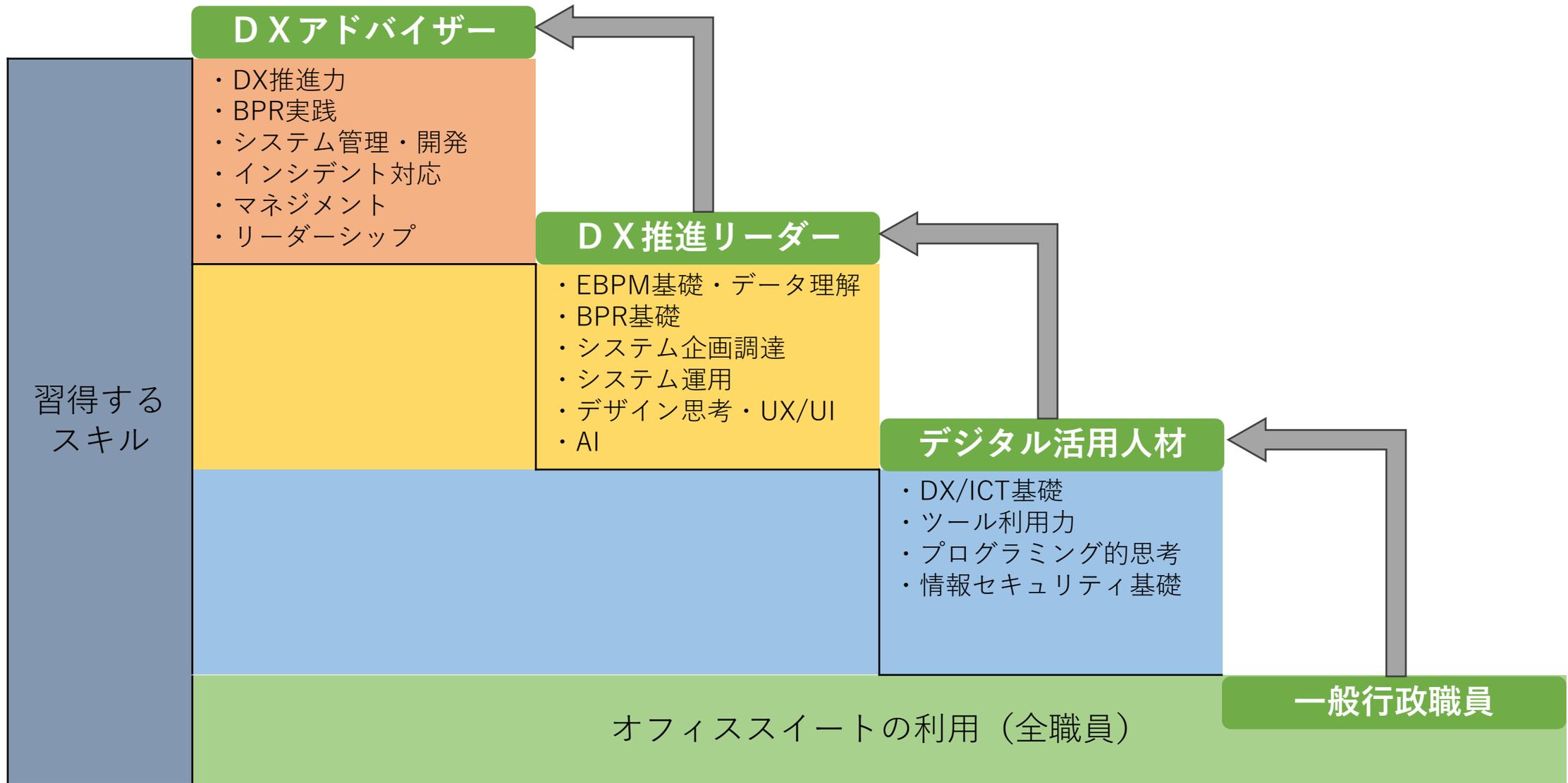
4-1 習得すべきスキル(1)

スキル		概要	DXアドバイザー	DX推進リーダー	デジタル活用人材
全般	DX/ICT基礎	DXが必要とされる社会的背景や考え方及びICTやネットワークに関する基本的事項を理解している。	○	○	○
	ツール利用力	DXのために導入しているノーコードツールの基本的な使い方をマスターしている。	○	○	○
	DX推進力	DXを推進するため、変革の方向性を理解し、組織の枠を超えてDXを推進できる。	■		
EBPM	EBPM基礎	EBPMの基本的な基本的な考え方について理解している。	○	○	—
	データ理解	データの適切な収集と分析、利用ができる。	■	○	
BPR	BPR基礎	BPRの基本的な考え方について理解している。	○	○	—
	BPR実践	部門を超えた業務フローを作成し、業務プロセスや業務パフォーマンスを可視化し、業務分析や見直しを行って、実際に運用することができる。	○	—	
企画・調達・運用	システム企画・調達	施策の方向性を検討し、優先順位を付けて計画を立案できるとともに、事業者に提案を依頼し、適切な事業者の選定及び契約ができる。	○	○	—
	システム運用	システムの運用管理や利用職員の教育・サポート、情報セキュリティ管理ができる。	○	○	
	システム管理	要件定義等、理解しておくべきシステム設計・開発にかかる知識を有し、成果物評価ができる。	■		
	システム開発	アジャイル開発の基本概念等、柔軟でスピード感のあるシステム開発手法を理解し、簡単なプログラムを作成することができる。	○		

4-1 習得すべきスキル(2)

スキル		概要	DXアドバイザー	DX推進リーダー	デジタル活用人材
思考力	プログラミング的思考	プログラミング的思考を身に付けるとともに、ノーコード・ローコードツールを理解している。	○	○	○
	デザイン思考	行政サービスの向こう側にいるユーザーを常に意識し、ユーザー体験を最適化するようなサービスの設計と提供ができる。	○	○	
	UX・UI	ユーザビリティ・アクセシビリティに考慮した画面デザインを設計できる。	○	○	
AI	AI活用	AIの基礎(画像認識、音声認識、自然言語処理等)を理解し、業務においてAIを活用することができる。	○	○	
情報セキュリティ	情報セキュリティ基礎	三層分離や情報セキュリティに関する基本的用語、技術、考え方、リスクを理解している。	○	○	○
	インシデント対応	情報セキュリティ被害の種類を理解するとともに、発生した際の対処方法を理解している。	■		
管理能力	マネジメント	現状を把握し、柔軟に課題に対応し、適切な進捗管理・品質管理・リスク管理に基づき、円滑にプロジェクトをマネジメントできる。	■		
	リーダーシップ	組織の枠にとらわれず、DX推進のために必要な人材を集めて協業し、引っ張っていくことができる。	■		

4-2 スキルマップ



4-3 外部研修等

外部研修等		概要	DXアドバイザー	DX推進リーダー	デジタル活用人材
1	J-LISリモートラーニング	情報セキュリティコース	○	○	○
		個人情報保護コース	○	○	○
		デジタルリテラシー（ITパスポート対応）コース	◎	◎	
2	JAMP/JIAM	DX推進リーダー養成研修 等	◆	○	
3	APPLIC 自治体CIO育成研修	IT投資・ガバナンス編	◆		
		全体最適化と調達・運用設計編	◆		
4	国家試験	ITパスポート試験	◎(合格)	◎(受験)	

- DX推進リーダーは、本プログラムに基づく研修に7割以上出席し、ITパスポート試験を受験したものに限り認定する。
- DXアドバイザーは、DX推進リーダーが■をテーマとする研修に7割以上出席し、◆のいずれかを受講し、ITパスポート試験に合格した者に限り認定する。
- 受講履歴は令和5年度から引き継ぐが、DX推進リーダーとDXアドバイザーの認定を同年度内に受けることはできない。
- ◎をテーマとする研修の受講を必須とする。
- 「_」は、令和6年度のプログラムでは「○」と位置付けていたものを、令和7年度の本プログラム見直しに伴い除外したものである。

5-1 内部研修実施体制

内部研修は、総務課行革・デジタル推進室が研修内容を企画し、実施します。また、自薦以外の受講者を決定するとともに、全ての受講者の受講履歴の管理を行います。

5-2 研修の評価・改善

各研修の実施に当たっては、実施後の簡易テストやアンケートで理解度や満足度を評価し、以後の研修改善に反映します。

5-3 KPI (Key Performance Indicator)

人材育成の指標として、次のとおりKPIを設けます。

項目	指標の性質	KPI (令和8年度まで)	令和6年度末
DXアドバイザー人数	各部2名程度を配置できる職員数。	12人	3人
DX推進リーダー人数	各課2名程度を配置できる職員数。	60人	5人
デジタル活用人材向け研修受講者数	全ての職員が研修を受講することで、デジタルリテラシーを向上させるために最低限必要と思われるスキルを身に付ける。	延べ400人	述べ176人